



きよくり news

CONTENTS

- ・年頭のご挨拶
- ・医療の第一線から
教育の現場へ就職して
- ・私のオフタイム
野球少年の母、楽しんでいます



Muraguchi Kiyomura Women's Clinic

新年あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしく願っています



昨年、久しぶりに海外旅行をした。以前駆け足で通り過ぎたパリにもう一度ゆっくり旅したいと思い、フランス8日間憧れの旅を企画した。同行者は夫と姉夫婦、4人旅だった。ファッション、美術、料理など、文化的レベルが高い、華やかなパリを勝手に想像していたが、実際のパリは古き物と程よく共存し、以外に地味な街だった。オ・ラパン・アジル (Au Lpan Agile)、無名時代のピカソやユトリロ、マティスなど貧乏芸術家たち御用達の安酒場だったというシャンソンのライブハウスへ行った。観客用の簡素な木の椅子が周囲に並べられており、中央にシャンソニエ用のやや大きめの木のテーブルがあり、山小屋のような部屋だった。24ユーロを支払い

梅酒?をちびりちびり、シャンソンを聞いた。民衆の生き様が、くじけない力強い意思が、悲しみの叫びが聞こえるようだった。とても哀愁に満ちた空間、民衆酒場だった。「自由・平等・友愛」フランス市民革命を思い浮かべた。宿泊したホテルはセーヌ川添いにあり、骨董品とも言えるベット、椅子、テーブルなど調度品が、そっと寄り添い穏やかな気持を誘う。ホテル近くの一帯はアンティーク街だった。その先にオルセー美術館があり、対岸に勇壮なルーブル美術館が見え、ここぞパリを満喫するには申し分なかった。

一度は見ておきたいと、ベルサイユ宮殿半日観光に参加した。フランス革命前夜、その一因は宮廷の浪費による財政破綻がその背景にあったという。「アポロの間」「ヴィーナスの間」、「マルスの間」・・・フランスの絶対王政最盛期を象徴する絢爛豪華さに圧倒される。贅の極めつくし、人間の果てしない欲望が見えてくる。有名な世界遺産・モンサンミッシェルへ行った。強大な権力を誇った修道会を象徴する石造りの見事な建造物、フランス革命後、修道会は散会し、1863年までの間は監獄として使用されており、その残像を見た。

今回の旅行で今でも時々タイムスリップするのは、なぜか廃墟の街オラドールの光景だ。

1944年6月10日ナチスドイツに焼き尽くされたこの街を知る人は少ないかも知れない。パリから列車で4時間リモージュに到着、そこから車で40分行くとオラドールである。ドゴール大統領の英断により、廃墟の街は、学校、カフェ、お店、車、ベッド、マシンなどが焼かれたままの当時の凄惨な姿を残している。訪れる人は少なくとも、政府が統括する記念館として、常駐する職員がしっかり管理していた。

過去の歴史に向き合い、今をいかに生きるか、一人ひとりに問われている、今そんな緊迫した時代に私たちはいる。私は改憲に反対する「みやぎ憲法9条の会」、「日本軍慰安婦問題の早期解決をめざすみやぎの会」、子どもたちを放射能汚染から守り、原発から自然エネルギーへの転換をめざす「女性ネットみやぎ」に参加してきた。一方で1998年発足した「リプロダクティブ・ヘルス/ライツネットワークみやぎ」、それは私にとっては市民活動の本丸である。「性の健康」を創るための活動であり、クリニックの診療活動と両輪である。

私にとって今年は「古希」の年です。今年もしっかり頑張っていきます。ご支援・ご厚情のほどよろしくお願い致します。

院長 村口喜代

寄稿 竹田理恵さん 仙台青葉学院短期大学 看護学科 助教（元きよくり看護主任）



皆さま明けましておめでとうございます。今回、喜代先生からお声掛け頂き、久しぶりに「きよくりニュース」に登場させていただきました。

恩師からの誘いにより今の職場に来てから、早いものでもう1年半が過ぎましたが、折に触れ「きよくり」での様々な経験を思い出します。たくさんのお客様との出会い。相談業務を通して一緒に泣いたこともありましたが、一人一人が今でも私の中で大切な存在です。そしてスタッフとの出会い。時には建設的な話し合いがヒートアップすることもありましたが、診療の場だけでなく学会やセミナーや研修旅行…と同じ時間をたくさん過ごしてきた思い出は、私にとって今を生きる励みとなっています。クリニックでの診療だけでなく、ご自身が

おこなっていることを常に社会に発信している喜代先生にお世話になった約10年間は、私にとって大きな学びの場であり、また看護の学習をもっと深めたいという動機づけの場でもありました。

そして今、看護を学ぶ学生さん達と一緒に、じっくりと看護を考える仕事に就いています。短大での教育の仕事は終わりがありません。自分がどこで線をひくか、それによって充実度が変わる、考えてみれば際限のない恐ろしい仕事だな、と感じています。学生さん達はとても素直で可能性に満ちており、私はそんなに懸命に学習してきたらどうか、とドキッとさせられることもしばしばです。

今年度からは宮城県の若者支援ピアカウンセリング事業に携わっており、本学だけでなく他大学の学生さんとも一緒に働く機会ができました。そんな中で、私がきよくり勤務していたことを知ってか知らずか、性に関する相談を受けることが度々あります。相談の内容は、やはり避妊のこと、中絶のこと、心の傷のこと…。最近では、関わった学生以外からも声を掛けられるようになってきました。改めて、「性」について相談ができる「大人」の存在がどれほど重要か、と思わされるこの頃です。若者たちは、一人で傷つき、時に友人との間で慰め合うことはできても、傷を乗り越えることができずにいます。中絶したことを今でも思い出す、周囲の子どもを見るとつらい、彼とこのまま付き合っただけで良いのか悩んでいる…等々。彼と一緒にいて楽しい幸せな気持ちになれていますか？ つらい苦しい気持ちになっていませんか？ その経験を糧にしていきましょうね…、問いかけていきたいと思っています。

最近では複数の学生さんから、「この間村口先生の所に行ってきた」「ピルをもらってきましたけど、吐き気が少しあって…。このまま飲んで大丈夫ですか？」「クリニックの看護師さんにたくさん話を聞いてもらいました」などの声が掛かります。短大の近くに安心できる医師とメディカルがいるということは、本当に心強いものです。

喜代先生の、学ぶことに対する真摯な姿勢は、今でも私の原動力となっています。「きよくり」から学んだ経験や思いを無駄にしないよう、看護の学習、教育の仕事、社会活動、と頑張っていきたいと思っています♪

私のオフタイム

野球少年の母、楽しんでます

看護師 早坂 恵

私は休日のほとんどを屋外で過ごします。季節に関わらず、朝から晩まで一日中です。それは二人の息子が野球をしているからです。長男は小学3年生の時から、次男は小学1年生の時から始めました。そんな二人も4月からは、中学3年生と中学1年生になるので、野球中心の生活も5年以上というわけです。朝早い時には4時起きしておにぎりを握ることもあります。夏ならたくさんの氷、冬ならたっぷりのお湯を沸かしてポットで持っていきます。真夏の日焼け対策や真冬の防寒対策は本当に大変ですが、それを上回る楽しさもあります。春や秋に外で食べるおにぎりはとても美味しく、試合で勝利した時に食べるおにぎりは格別です。思春期真っ只中の息子達。今のところ反抗期もなく？父とも母とも何でもよく話します。野球が忙しく旅行などには行けませんが、家族同じ目標に向かって過ごしているからこそ、今の関係だと感じています。あと数年は忙しい休日が続きますが、息子達の成長を見守りながら、楽しく頑張れたらと思っています。



編集後記

新しい年が始まりました。
今年も皆さまにとって、幸多き日々でありますように。



【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。

発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

